コンセプト

星が丘図書館

まなびのテラス

「人が集まり、学びがつながり、開いていく場」としての空間づくり。
“まちの延長”として生まれる、新しい学びの風景。

空間・ゾーニング構成の考え方①

回遊し、偶然の出会いを生む『プロムナード』

各フロアを回遊する共用通路。
そこには、小さな展示棚やスツール・ベンチ、サインが点在し、そぞろ歩きながら学びや発見が連続する“滞在するための道”となります。
プロムナードには活動の気配が点在し、それらはまちの中の「寄り道スポット」のように、人をゆるやかに中へと引き込んでいきます。

空間・ゾーニング構成の考え方②

交流、発信、居場所となる『８つのテラス的空間』

プロムナードをそぞろ歩くと見え隠れしながら現れるのがテラス的空間。
ここは利用者それぞれの居場所となります。
誰かと語り合う場所であり、静かに考え込んだり、一人こもる場所であり、外の光を感じながら本と向き合う場所であり、みんなに向けて活動の成果を発信する場所であり、各フロアに配された“８つのテラス的空間”が、利用者それぞれの施設の過ごし方や使い方を受け止めます。

空間・ゾーニング構成の考え方③

ゆるやかに分けられ、自然につながる空間構成

プロムナードとテラス的空間とは、小さな展示棚や書架のボリュームでゆるやかに分けられ、そこには自然な境界が生まれます。
空間どうしはつながりながら“雰囲気”で場所を分け、利用者の過ごし方にあわせて居場所を選ぶことができる場づくりをおこないます。

空間・ゾーニング構成の考え方④

デザインキーワードは『八』「名古屋市らしさ」を散りばめた空間づくり

「八つのテラス的空間」、「八角形のシンボル造作」、「八つの名古屋の伝統色によるサイン計画」など、名古屋市の市章にある「八」をデザインキーワードとして、かたちや空間づくりに落とし込みます。
名古屋市の新しい図書館の空間づくりとして、「名古屋市らしさ」を随所に表現した場づくりをおこないます。

空間・ゾーニング構成の考え方⑤

星が丘という“まち”へのオマージュ

星が丘は、“道”が印象的なまちです。
道を歩くと、ふと視界が開け、小さな広場や人の気配に出会う。
この“星が丘らしい体験”を、私たちはこの図書館に取り込みます。
まなびのテラスは、星が丘というまちへのオマージュであり、ここには、この場所ならではの“学びの風景”がつくりあげられていきます。

空間・ゾーニング構成の考え方⑥

“静かに過ごす場所”から“まちと学びが連続する場所”へ

「気づき」から「発見」へ、「発見」から「共創」へ、そして「集中」へ。
学びが自然に深まっていく流れそのものを空間としてデザインします。
「プロムナード」と「テラス的空間」による空間構成は、図書館でありながら、どこか公園のようで、まちの広場のような、ひとの過ごし方と居場所が点在した「まちと学びが連続する場」をつくりだします。

空間・ゾーニング構成の考え方⑦

“変化し続けられる”図書館へ

私たちは、この図書館を計画するにあたり、「更新性」「可変性」を重視し、使いやすさに配慮して「運営しやすさ」にもこだわります。
「市民参加」の仕掛けも具体的に検討し、きっと長く使ってもらえうことにつながると考え、この図書館に愛着をもってもらえる工夫をします。
管理する側も利用する側も、図書館の「運営」に参加しやすくなることで、みんなでつくる、“変化し続けられる”図書館が実現できると考えます。

みんなのテラス

４階にあがった正面にある、八角形モチーフが印象的なシンボルウォール。ここでは、周辺地域の皆さんそれぞれが主役。まちの情報や活動が発信される「棚」を運営していきます。

市民作品展示　地域情報発信



プランのポイント①
カウンターはフロアを見渡せる位置に配置。さらに、バリアフリー対応の席・書架はカウンターの近傍に配置し、サポートをしやすいよう配慮します。

プランのポイント②
集密書架内には、カビ対策として天井付けのサーキュレーターを設置します。

こどもとテラス

小さなお子さんと一緒にのびのびくつろげるエリア。靴を脱いで自由気ままに遊んだり、本を読んだり。段々の小上がりで、読み聞かせ会も開催されます。

親子エリア　おはなし会



プランのポイント③
床は消音効果のあるカーペット貼とし、優しい歩行感で汚れた場合も容易に貼り換え可能なタイルカーペットを施します。

プランのポイント④
書架はプロムナードに対して直角ではなく、少し角度をつけて配架。通路を歩く人から分類サインが見やすく、探している本を見つけやすくなります。

ようこそテラス

来館者を最初にお出迎えするテラス。各分野のおすすめ本や季節ごとのおすすめ本に出会える場所。サイネージも併設し、まなびのテラスの情報の入口となります。

学びの入口　おすすめ案内



プランのポイント⑤
カウンターはこどもとテラスに近く、フロアが見渡せる位置に配置。お子さま連れの来館者へのサポートもしやすい位置です。

プランのポイント⑥
フロアを回遊するようにプロムナードを計画します。通路幅は1800 ㎜以上を確保し、バリアフリーにも配慮しています。

おはなしテラス

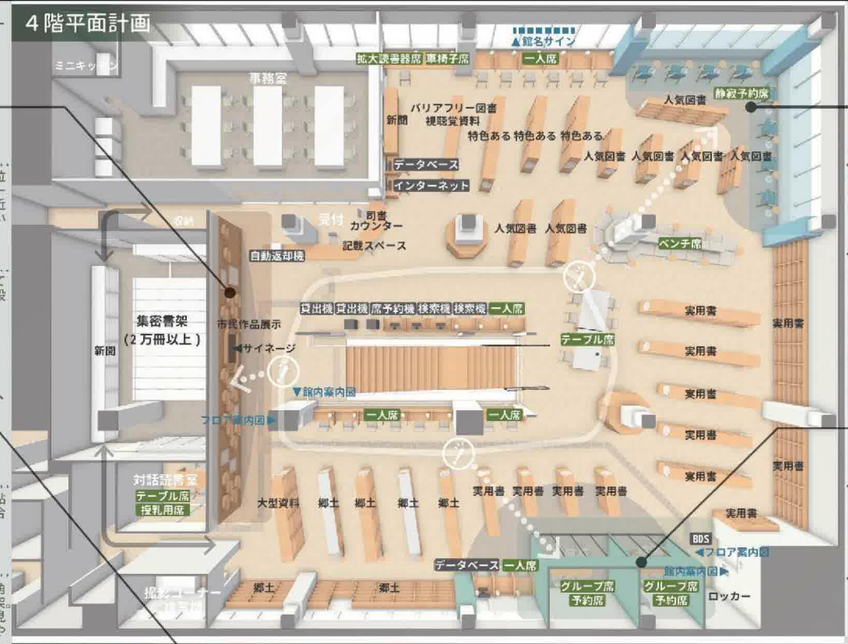
多目的なセミナールーム。
間仕切りはガラス可動パーテーションとし、一室で区切ったり、少人数グループルームとしたり、全面オープンとしたり、多彩な利用シーンに対応します。

セミナールーム　個室ルーム

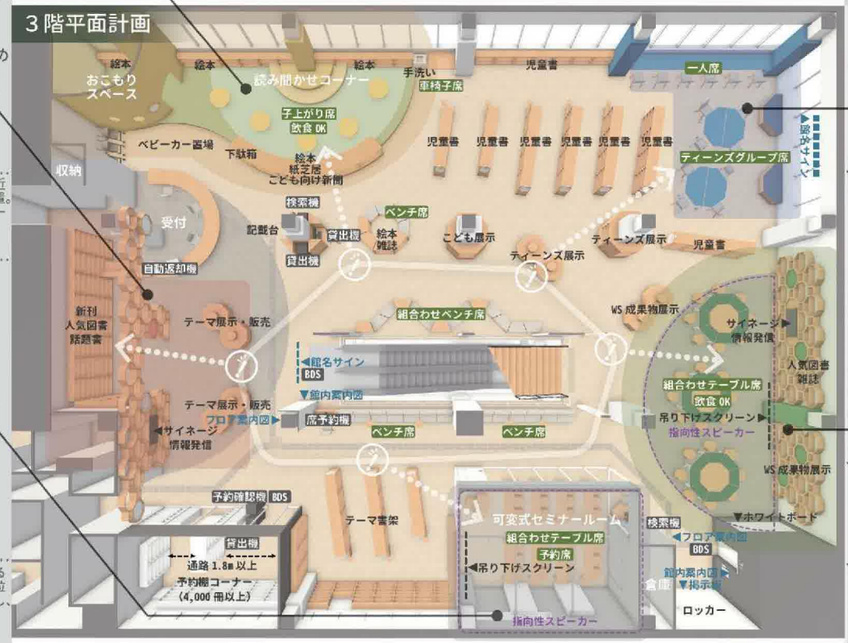


プランのポイント⑦
予約棚はカウンターから見通せる位置に配置しつつ、少し離した位置にとして、利用者動線を分離し、混雑を回避します。

４階平面計画



３階平面計画



みはらしテラス

館内の一番見晴らしの良い場所に設けられた予約席。静寂エリアとして設定され、本と過ごす時間に没頭するための空間です。

静寂エリア　じっくり読書



プランのポイント⑧
静寂エリアは書架でゆるやかに囲み、他のエリアと分節します。
周辺の天井には吸音材を配置し、防音対策も施します。

プランのポイント⑨
一人席は全席コンセント・個別照明・パーテーションを設置します。パソコンの持ち込みや集中して読書・学習がしやすい環境を整えます。

しらべるテラス

ひとり調べ物に没頭したり、専門書などを持ち寄って仲間と議論したり、さまざまな調査・研究のしかたをサポートする集中ブースを備えたエリア。

調査・研究　グループ議論



プランのポイント⑩
落ち着いて過ごせる４階にも、グループで討論できるスペースを計画。ガラスパーテーションで区画し、防音性も確保します。

プランのポイント⑪
ベンチ席やテーブル席、書架エンドの一人席などを各所に点在させ、「少し読んでから本を選ぶ」という利用者の過ごし方に配慮します。

あおはるテラス

10 代を主な対象としたティーンズエリア。グループでわいわいできたり、一人でも過ごせたり。少し囲まれ感のある場所。

ティーンズエリア　グループ学習



プランのポイント⑫
プロムナードに面した柱には八角形をモチーフとした展示書棚を造作します。
フロアを回遊する中で、本との偶然の出会いや気づきを生んでもらえる工夫をします。

こもんずテラス

ワークショップやオープンセミナーが活発に開催される情報発信交流拠点。壁面にはイベントの成果物などが展示されます。

地域交流　ワークショップ



プランのポイント⑬
グループワーク、セミナーなどの利用シーンに合わせて可変できる組み合わせテーブルや吊下げスクリーンで開催できるイベントの可能性の幅を広げます。

プランのポイント⑭
おはなしテラスとこもんずテラスには参加者には聞こえやすく周囲には聞こえにくくなる指向性スピーカーを導入し、周辺で過ごす方へ配慮します。

断面計画｜中央吹き抜けより見る



本資料に掲載している画像等の権利関係については未確認のものを含みます。いずれも提案検討用の参考イメージとして使用しております。予めご了承ください。

３階｜気軽に楽しめるフロアの考え方

ようこそテラスで新たな発見に出会い、各テラスでは多世代が思い思いに過ごす、にぎやかな学びの風景。



八角形をモチーフとした壁面ディスプレイ棚造作とオリジナル什器がならび、利用者が知りたい情報や時期ごとのおすすめ情報に出会える場所。ディスプレイ棚ゲートをくぐった奥には、新刊や人気図書を閲覧できる書架を設置し、この図書館の入口として利用者をむかえます。



自然光が差し込む明るく居心地のよいテラス。小上がりは飲食 OK とし、ゆったり過ごせます。



利用シーンによって可変できるテーブルにより、活発なグループワークに対応します。



テーブル・ベンチ・展示用什器など、多彩な用途で使えるオリジナル什器を開発・提案します。



壁面には、ワークショップ成果物の展示と共に関連する書架を陳列できる棚を計画します。

４階｜落ち着いて過ごせるフロアの考え方

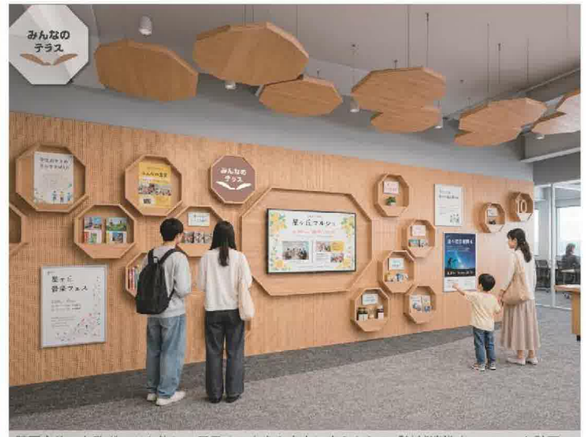
じっくり本と向き合い、時には議論しあえる、落ち着きのある学びの風景。



幅がひろく、座り心地が良いソファを選定し、快適な読書時間を過ごせる環境を整えます。



書架がすぐ側にある予約制の個室は、調べものや研究・グループでの討論に最適です。

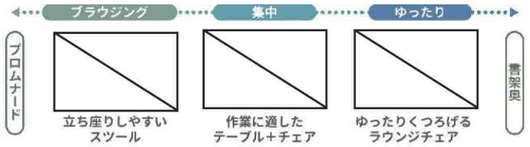


壁面全体に有孔ボードを施し、展示する内容を自由に変えられる「地域連携ウォール」を計画。地域のみなさまと図書館が連携し、エリアの活動や情報が活発に発信されます。

閲覧室について｜家具什器計画の考え方

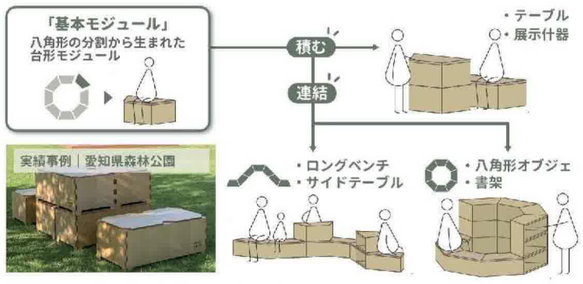
過ごし方に合わせた多彩な席バリエーション

各フロア・各ゾーンそれぞれの過ごし方にあわせて、最適な座席を提案。ブラウジングゾーンには気軽に腰掛けやすいスツールを、集中して読書や作業をおこなうゾーンには椅子を、ゆったり過ごしてもらうゾーンにはラウンジチェアやソファタイプといったように、過ごし方に相応しい家具を選定し、利用者の多彩な居場所をつくります。



多用途に使えるオリジナル組合せ什器を開発

展示棚・スツール・テーブルなど、使うシーンに合わせて多用途に変換できるオリジナル什器を開発します。
時々によって変化する場の使い方に対応でき、図書館のフレキシブルな場所の運用・運営に寄与します。
ユーザビリティに配慮し、積み重ねたり、動かしたりしやすい重量とすること、壊れにくい単純な仕組みとすることに配慮して開発します。
さらに、県産材を積極的に活用し、代表企業の自社県内工場で製作することで、輸送コストの低減や確実なメンテナンスなど、LCC に配慮します。



閲覧室について｜仕上計画・採用するマテリアルの考え方

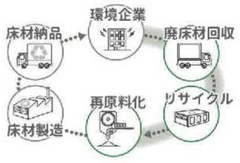
地産材を積極的に採用し、ＬＣＣに配慮します

オリジナルの家具造作には愛知県産材を積極的に採用します。
愛知県内の工場で製材加工、家具製造までを行うことにより、輸送時の環境負荷や流通コストを低減し、イニシャルコストを合理化します。
実際の家具造作には、“県産材を採用していること”が伝わるようなサインを掲出し、利用者に愛着を持って長く使ってもらえるための工夫をします。



仕上材にはサーキュラーマテリアルを採用

床・壁などの表層仕上材には、リサイクル素材を採用するほか、将来的な再利用を前提とした「サーキュラーマテリアル」を積極的に採用します。
限りある資源を循環させる仕組みを設計思想に取り込み、持続可能な社会の実現に寄与します。



耐久性に優れ、汎用性のある仕上げ材の選定

床・壁などの表層仕上げ材には耐久性・防汚性・清掃性に優れた製品を採用し、更新周期が長くなるように仕上げ材料を計画します。
特殊な材料や特注品はできるかぎり避け、汎用性の高い製品を選定することで、メンテナンス時の取替も容易となり、可用性に寄与します。

什器・サインの角は丸く。徹底した安全性対策

家具や什器の出隅部分はすべて丸面取り加工とします。さらに、手がふれる可能性のある高さに設置するサイン板面についても角を丸くします。
多世代にわたる利用を鑑み、徹底した安全性確保のための対策を施します。



閲覧室について｜サイン計画の考え方

統一感のあるサインシステムを構築します

案内サイン・誘導サイン・注意喚起サイン・書架サインなど、施設内すべてのサインデザインを統一したサインシステムを構築します。
「八角形」など、あるモチーフにしたがった「サインの形状」、名古屋の伝統・文化などから引用する「サインの色使い」、UD フォントを採用する「サインの書体」にわたって、サイン計画担当者が適切に計画します。

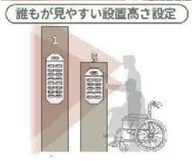
<名古屋市の文化・地域性を採り入れたサインシステムの考え方>



直感的にわかりやすい色彩計画と設置計画

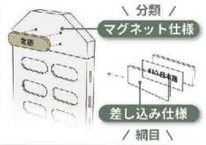
各ゾーンには、名古屋市の文化や歴史、地域性から抽出したカラーを活用し、それぞれの空間に固有の色彩を割り当てます。
ゾーンごとの色は、サインのみならず、床・壁・天井の意匠の一部にもアクセントカラーとして配され、空間の構成要素全体がサインの役割を果たすよう検討し、利用者が自然と場所の特徴や用途を認識できるサイン計画をめざします。
各サインについては、館内のどこからでも視認しやすいよう、サイン掲出の場所・設置高さ・形状・文字の大きさを詳細に検討するとともに、動線や視線の流れにも配慮した計画とします。





管理者も取替可能な更新性とデザイン性を両立

運営上で更新・変更が必要となるサインは、場所の変更が容易なマグネット式や、紙出力したもので取替可能な差し替え式を採用します。
統一感のあるサインシステムのデザイン性は担保したまま、どなたでも変更・更新がしやすい可変性も兼ね備えた計画とします。



閲覧室について｜設備計画の考え方

空間デザインと一体となった吸音設備を実装

にぎやかな３階の各エリアには、空間デザインの要素としての役割も果たす天井吸音材を配置します。
それぞれのエリアで適切に吸音することにより、にぎやかな中でも互いに気兼ねなく過ごすことができる場をつくります。

イベント開催場所には指向性スピーカーを実装

こもんずテラスなど、セミナーなどのイベント開催が想定されるエリアには、指向性スピーカーを設置します。
参加者の聞こえやすさを確保しつつ、周辺で過ごす方々への影響を最小限にします。



サーカディアンリズムに合わせた光と音環境

基本照明は無線で調光・調色制御できるシステムを導入。無線制御のため、運用開始後の照明ゾーニングの変更も工事不要で対応可能です。
館内の音響システムには、森林・川などの自然の音をベースとした空間音響システムを導入。
照明の色温度・照度と音響は朝～昼～夕方～夜と時間によって変化させ、サーカディアンリズムに合わせた心地よい空間をつくります。



適切なタスク・アンビエント照明計画

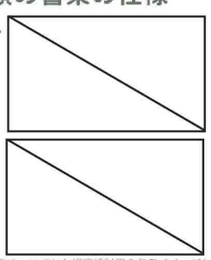
閲覧席などの作業場所には適切にタスク照明を設け、作業に最適な環境をつくりだします。



閲覧室について｜書架計画の考え方

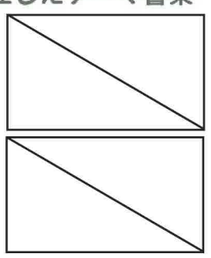
場所の性格に合わせた、二種類の書架の仕様

絵本や児童書が主体となるこどものエリアは、書棚自体の高さを低く設定しており、地震時の書架の転倒リスクが小さくなるため、やさしい雰囲気のある「木製書架」を採用し、意匠性に重点を置きます。
その他のエリアには、耐震性を備えたスチールフレームを主構造として、木製の棚板と化粧側板が空間の雰囲気に寄り添う「金属・木製混合書架」を採用します。
災害時の安全性能を確保しながら、平常時の意匠性をしっかりと確保します。



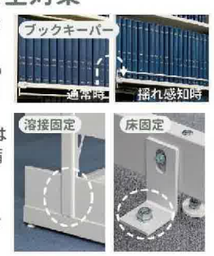
運用のしやすさと訴求力を両立したテーマ書架

テーマ書架は、“平面・面陳列展示台タイプ”と“展示棚組み込み書架タイプ”の二種類を検討します。
“平面・陳列展示台タイプ”はショップの陳列台のように、平面陳列と面陳列を自由に組み合わせられ、本以外のものと合わせて陳列しやすく、展示更新が比較的容易です。
“展示棚組み込み書架タイプ”は書架に、飾り棚パーツを組み合わせたもので、収容できる本の数を多くでき、ボリューム感のあるテーマ書架をつくることができます。



耐震性に優れた書架の採用と安全対策

各フロアの主な書架には、接合部が溶接加工されたスチール製フレームの書架を採用します。ボルト固定ではなく、溶接加工された仕様であるため、阪神大震災相当（800 ガル相当）の地震にも耐えうる耐震性を備えています。
書架の５段目以上（FL＋1200 ㎜程度）の棚には揺れを感知して作動するブックキーパーを装備し、地震時の書籍の落下を防止します。
背の低い木製書架も含めて床面に固定するほか、可動式什器のキャスターにもロック機構を備えたものを採用し、安全対策を施します。



周辺地域との連携・協働の考え方

市民や周辺施設の関わりしろを設計します

基本設計の初期段階から実施設計、そして開館時に至るまで、一貫して市民が主役となるプロセスを構築します。具体的には、「テラス的空間」の場づくりに関するワークショップの開催、新しい図書館の愛称の公募、シンボルウォールの壁面アートづくりワークショップ開催など、本施設の設計・施工のプロセスに市民や周辺施設の方々が参画できる関わりしろを具体的に設計し、提案します。
図書館をつくり上げる段階からこの施設に愛着をもってもらい、長く大切に使っていただける機運を醸成していきます。



本資料に掲載している画像等の権利関係については未確認のものを含みます。いずれも提案検討用の参考イメージとして使用しております。予めご了承ください。